



桐

K

I

R

I

目黒学院高等学校同窓会事務局

〒153-8631 東京都目黒区中目黒1-1-50

電話 03-3711-6556

編集発行人 会長 安達 富夫

URL <http://www.meguro.ac.jp/Kiri/>

平成24年度同窓会 総会および懇親会のご案内

東日本大震災の発生に伴い、昨年、開催を見送りました同窓会の総会・懇親会を、4年ぶりに右記のとおり開催いたします。

本年も、これまで同様ご出席いただいた会員の皆様にご満足いただけるよう、恩師や会員との親睦を深める楽しい懇親会を開催すべく、役員一同で万全の準備をいたしております。

会員の皆様におかれましては、クラスメイト、先輩、後輩へと共々に幅広くお声を掛け合って、多数ご参加ください。

なお、当日は、ご同伴でのご出席も大歓迎いたしますので、既婚者の方は奥様と、独身者の方は恋人、ガールフレンドと一緒にご参加いただいても結構です。多数の会員皆様のご出席を、心からお待ち申し上げております。



記

- 日時 平成24年7月7日（土）午後6時から
○場所 新宿ワシントンホテルビル内宴会場、
「ウエストシティホール&ウエディングアイ」
本館2階「クローバー」
(新宿駅南口改札口より都庁方面 徒歩8分)

○交通アクセス

JR新宿駅南口下車、小田急線・京王線・東京メトロ丸の内線新宿駅下車、都営大江戸線都庁前駅下車

○会費

平成21年～24年3月卒	2,000円
平成12年3月卒～20年3月卒	3,000円
平成11年3月卒以前	5,000円

※同伴出席者の女性分会費は、本人会費の半額とさせていただきます。

○内容

着席スタイルのパーティ形式
アトラクション
表彰（親子二代卒業生）
ショータイム（双子の女性歌手「リリース」）
ビンゴゲーム（景品を多数用意）

※総会・懇親会への出席連絡は、同封の葉書をご利用ください。

また、葉書投函後にご都合が悪くなった場合には、同窓会ホームページの「お問い合わせ・ご意見フォーム」からご連絡ください。

URL <http://www.meguro.ac.jp/Kiri/>

なお、住所等の変更もなく欠席の方は葉書を投函しないでください。



平成23年度会務報告



同窓会会長

安 達 富 夫

(昭和43年 3月卒)

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝でお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、日頃から同窓会に対して様々なご支援、ご鞭撻をいただきまして厚く御礼申し上げます。

まず、本誌を通してこの1年間の本会の経過報告等をさせていただきます。

母校の行事につきましては、例年同様、卒業式、梧林祭に同窓会から代表が出席して、卒業生、在校生に対する祝意と激励を行ってまいりました。卒業式後には、高校3年間を終えられたPTA主催の「謝恩会」と中学・高校の6年間を終えられた「卒業を祝う会」との両方に、同窓会から代表が出席して、祝意を表させていただきました。

本会の会員数について申し上げますと、去る3月10日の第64回卒業証書授与式を以て、新たに191名の新会員を迎え、会員総数では30,300名となりました。このうち、本年の親子2代に亘る卒業生は、2組4名でありました。(8頁記載)

また、例年ご協力をいただいております同窓会賛助会費の納入については、本年も多数の会員からのご賛同と深いご理解をいただき、平成23年度は7頁にご芳名記載のとおり206名の方々から納入をいただきました。

平成23年は22年に比較すると納入者数は14名増加となり、収納金額も増加しました。この中には、お一人で大口納入のご協力者もいらっしゃいました。このうち、新規に納入をいただいた方々は46名でした。

ここに、謹んでお礼申し上げます。この賛助会費は、すでに本誌にてたびたびご案内させていただいておりますが、一口1,000円で全会員を対象にご協力をお願いしております。

本年も、本誌の発送とともにすべての会員に、賛助会費(同窓生年会費)の払込通知票を同封させていただきましたので、会員諸兄のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、口数は任意ですので、お志のある方は、是非、複数口のご協力を重ねてお願い申し上げます。

ところで、本会ではこれまで長年に渡って毎年、卒業生に「同窓会名簿(卒業生名簿)」を作成し、卒業記念に贈呈してきましたが、本年3月の卒業生について名簿作成を中止としました。

「同窓会名簿」は、卒業後にクラスメイトとの交友に

役立つようにと作成してきましたが、昨年以降、名簿情報が会員以外に漏洩しているとの情報が寄せられたことを受けて、学校側とも協議のうえ、会員情報の保護を最優先とし、作成を中止としました。

今後、クラス会や同期会開催等のため、本会宛てに会員情報の提供を希望される場合は、①使用目的、②提供希望の情報項目、③申し出者の本人確認が出来る書類(運転免許証・保険証等の写し)を添えてお申し出いただくこととなります。

本会ではこれまで同様、会員情報の管理については細心の注意を払ってまいりますので、ご了承ください。

さて、本年は、本誌1面にのご案内のとおり、4年振りとなる**同窓会総会・懇親会**を来る7月7日(土)に新宿のワシントンホテルビル内宴会場「ウエストシティホール & ウエディングアイ」において開催する予定です。本年の懇親会は、会員の皆様ができるだけ多く参加しやすいように、参加費を見直して前回までよりリーズナブルな設定とさせていただきます。

会員諸兄におかれましては、友人とお誘い合わせのうえ、ふるってご参加ください。

皆様に喜ばれる総会・懇親会を開催してまいりたいと思っております。

また、本年は、本誌7頁掲載のとおり4年前の平成20年と同様に総会・懇親会の開催日に合わせて、学校側のご協力のもと、学校見学会を開催させていただきます。久しく母校を訪ねられていない会員の皆さん、たまには母校へ足を運ばれてはいかがでしょうか。皆さんが学んだ頃とはまた違った景色が見られることと思います。

多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

今後もお一層、同窓会に対するご支援、ご鞭撻、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

会員諸兄、母校在校生並びに教職員の皆様方の益々のご健康とご発展をお祈り申し上げて、会務報告とご挨拶といたします。

平成24年度 同窓会委員会の開催について

平成24年度同窓会委員会を、下記のとおり開催いたします。

各クラスの委員の方は是非、ご出席ください。

特に、平成21年・22年・23年・24年に卒業された、各クラスの正・副委員の皆さんは、初めての委員会ですので欠席のないよう、お願いいたします。

記

●日 時 平成24年6月23日(土) 午後2時～
●場 所 目黒学院高等学校
●議 題 ①役員改選の件

②平成24年度同窓会総会・懇親会開催の件
(報告事項) ①平成23年度決算報告の件
②平成24年度予算の件

ご挨拶と学校の動向



理事長・校長

関 口 隆 司

平成23年度は、東日本大震災の影響で5月8日までは部活動の一部制限、下校時間を30分早める等の措置を講じておりました。また、校外授業の一部の実施を見合わせることでありましたが、それ以外は大過なく共学化初年度の行事を取り行うことができました。女子生徒が入学して1か月も経過していない昨年の4月下旬に来校された2年生（男子だけの最後の学年）の保護者の方から、「校内の雰囲気はかなり変わった、それも良い意味で」とのご指摘を頂きました。今後も生徒の個性を良い方向に導くための教育内容の充実に邁進する所存です。

本年4月の新入生は、中学生20名、高校生313名となりました。そのうち女子は中学生2名、高校生44名となっております。中学校・高等学校をあわせた生徒数も昨年に比べ90名以上増加し、学園全体に華やかさと活気をもたらしてくれております。何卒、卒業生の皆様におかれましては、引き続き創立72年目の「新生・目黒学院」へのご支援とご協力を賜りたいと願っております。

以下簡単ですが学園概況のご報告を申し上げます。

1. 学校行事等

前述の通り、平成23年度の目黒学院では、東日本大震災の影響で、残念ながら中学1年生の校外授業及び高校生のキャリアゼミの一部（いずれも福島県飯館村で実施予定）を中止せざるを得ませんでした。一昨年に相互交流の協定を締結した飯館村に対しては、生徒会等を通じて義援金の募集を行い、6月と11月に当職が飯館村を訪問して菅野村長に義援金を手交して参りました。

2. 教職員の異動

杉田一己副校長先生が定年を迎えられました。杉田先生は引き続き本校の副校長として高入生・一貫生両方をご担当されております。また、杉坂幸雄先生（保健体育）、幡鎌孝彦先生（保健体育）、仲村弘行先生（会計主任）が定年退職されましたが、杉坂、幡鎌両先生は引き続き専任講師として授業をご担当されております。専任講師では、小松昭夫先生（地歴公民）、矢野礎一先生（情報）、工藤徹先生（数学）、宮城秀幸先生（地歴公民）が退職されました。一方、秋葉一良先生（数学）、佐々木智之先生（保健体育）、西海将先生（数学）、森田由憲先生（国語）、加藤恵先生（数学）、佐久間一樹先生（数学）、ラス・リアン先生（英語）を常勤講師としてお迎えしました。更に、事務職員として増井茂樹先生を

お迎えしました。

現在の専任教員数は71名（専任講師・常勤講師を含む）、専任職員数は8名となっております。

3. 部活動の状況

関東大会以上に出場したのは、ラグビーフットボール部と空手道部でした。ラグビー部は関東大会Fブロックで準優勝し、全国大会東京第一地区予選準決勝に進出しましたが、残念ながら花園行きの切符を手にすることはできませんでした。空手道部は全国空手道選手権大会に出場が決定していましたが、残念ながら東日本大震災の影響で大会が中止となりました。

4. 大学進学状況

本校のホームページに本年度の大学進学実績を掲載しております。生徒の大半が大学進学希望であり、生徒の志望進路実現ために教職員一同なお一層真剣に取り組んでいく所存です。勉学であれスポーツであれ、真摯にかつ夢中で取り組み、自分自身の考え方にこだわりを持った「有言実行」の生徒を今後も育てていきたいと考えております。

5. その他

平成23年度は、経済的に就学が困難な生徒の保護者に対して学費を免除する規定に基づき、4名に対して授業料の全額免除を行いました。規程に基づき授業料を免除した場合には、同窓会からその一部をご援助いただく予定であります。

上述しましたように、ニュージーランドからラス・リアン先生をお招きいたしました。ラス先生は、本校の姉妹校であるシャーリーボーイズ・ハイスクールで長年教鞭をとられており、隔年で実施されるシャーリーボーイズ生徒の来日プログラムではいつも引率者として訪日されており、本校の教員にもなじみの深い先生です。オーラル・コミュニケーションを中心とする本校の英語教育に常勤講師として携わっていただいております。

また、本年2月にトンガからの留学生を2名受け入れております。彼らは4月に高等学校の体育コースに進学し、ラグビーフットボール部に所属しております。花園の全国大会出場から20年以上遠ざかっておりますが、かつての栄光を取り戻すべく部員全員が日々猛練習に取り組んでおります。

**賛助会費の納入をよろしく
お願いいたします！
賛助会費：一口1,000円**

賛助会費は一口1,000円で、口数は任意となっております。お志のある方は、複数口のご協力をよろしくお願い申し上げます。また、財政面で安定した本会運営を行うていくために、多数の会員諸兄のご協力をお願い申し上げます。

※納入にあたっては、同封の郵便局用「払込通知票」をご使用のうえ、お振込みください。

◆クラス会開催報告◆

小 川 直 巨

(昭和36年3月卒)

我々、古希の70歳、「目黒高36会」クラス会を平成23年11月25日、箱根湯本伊東園ホテルで開催した。

18歳の卒業間際に2回開催した記憶がある。その後、一部の連中との年賀状の添え書きの、ひと言は「クラス会をやろうよ」。それから50年。誰もが、かけ声ばかりで動かない。「しょうがねーやるか！」で、まず手がけたのは仲間の住所探しを開始。クラス54名。現状10名ぐらいしか分からない。同窓会事務局へのSOSは最終として、現状の10名からの追跡捜査。図書館での都内・近県電話帳から、さらに昔の住所を尋ね、半年で31名の所在が判明した。

その結果、同窓会事務局が把握している人数以上になり、判明分を事務局に報告した。だが、31名のうち6名が亡くなっていた。その他に緑内障、脳梗塞、心臓疾患等々で、第一回の開催の参加は15名だった。昨年の開催も同じ状況でした。クラス会開催の予算は6,000円、3時間飲み放題、カラオケ付。2回の開催で便宜を図ってくれていた高校時代、陸上短距離の飯島君が在籍していたときの陸上部のキャプテンだった山本が勤務しているホテルが、耐震の関係で取壊され、開催場所がなくなった。今回探したが適当な場所が見つからず、やむをえず宿泊とした。だが、皆さん年金生活者で、幹事として、いかに安くあげるかに苦労した。

場所は交通費の安い小田急で箱根湯本にした。参加は11名で、その中には愛媛から奥さん同伴で新車の大型ベントにトランクいっぱい、みかんを。また岡山から元自衛官で少林寺拳法の達人も参加。また、リッチで今でも青春を謳歌している現役の原宿商店会長もきた。その他に、カメラの本を出している元東京工芸大学の先生。ごっつい土建屋の親方も、また元保険会社の役員もいて、まさに異業種交流会で、大いに盛り上がり、即、名前は高校時代の“よびずて”になり、空白の50年はあっという間に、高校時代に舞い戻った。

部屋での宴会では、まず各自からの「卒業後から現在までと、今の状況を」報告。新宿のデパ地下で「旨そうなつまみ」を買い込み、箱根湯本で酒屋を探して「旨そうな酒」を大量に買い込んで持ち込んだ。そのせいか、普段おとなしいのが、からみだし酒癖の悪いのが発生し、みんなビックリ。急いで隣の部屋に寝かせた後に飲み直した。(酒と焼酎は買い過ぎて呑み切れず3升残った！)。

翌日は晴天で、久しぶりにロープウェイで大涌谷へ。

黒たまごを、ほおばり、芦ノ湖から海賊船に乗って遠足気分て帰ってきた。

部屋での高校時代の思い出話は、大学受験の生徒に担任の小磯先生は化学の担当だったが、放課後に英語を教えてくれて大学受験に役立った。また、夏休み部活の練習をしていると、先代の関口校長が「超レアの大型ベント!!」で乗りつけ、通りがかりに、「冷たいものでも買ってこい」と小銭をくれた。いい校長だった。さらに、北海道への修学旅行の最終日に函館で地震にあい、函館港が津波で冠水し、青函連絡船が運航できず、急遽、修学旅行では泊まらない湯の川の高級旅館の「花菱」に宿泊して、もうけた。最近では、一昨年初めて暑いさなか高校野球の応援に行った。5回戦までに真っ黒に日焼けした。在校生の応援が殆んど見られず、ジジイばかりだったので、昨年はみんなに応援要請をしたが1回戦で敗退してしまった。今年は頑張ってもらいたい。「みんなで応援に行こう！」。

また、クラス会の開催は我々、老い先が短いので毎年開催することとした。さらに、余裕のあるやつは同窓会賛助会費を納めるよう伝えた。最後に今回のクラス会で1人の住所が判明したので同窓会事務局に報告した。



筆者は写真前列中央のYシャツ姿

◆急募！ 同窓会活動にご協力いただける人材◆

対 象 年齢不問、同窓会の活動に関心のある方。
パソコン、インターネットに興味のある方大歓迎。
連絡先 下記の同窓会のホームページ、「お問い合わせ・ご意見フォーム」からご連絡をお願いいたします。
★同窓会ホームページのアドレス★
<http://www.meguro.ac.jp/Kiri/>

●クラス会・同期会の開催状況をお寄せください！

本紙では、紙面の一層の充実を図り、会員にクラス会、同期会の開催状況を広くお知らせするために、投稿をお待ちしています。

〔要領〕 開催の様様（開催日時、場所、参加者数等）を、字数1,000字以内にまとめ、写真を添えて投稿者の氏名、住所、電話番号、卒業年を明記して下記にお送りください。

〔宛先〕 〒153-8631 目黒区中目黒1-1-50
目黒学院高等学校同窓会事務局 まで

◆タイムカプセル◆

今回は、母校の最寄り駅の一つである「恵比寿駅」周辺の昔と今を比較してみました。

昭和26年当時の恵比寿駅前



(写真提供：白根記念渋谷区郷土博物館・文学館)



昭和34年当時、中目黒方向から見た駒沢通りと恵比寿駅周辺

現在の恵比寿駅前周辺



中目黒方向から見た現在の駒沢通りと恵比寿駅方面



優しさと和をもち
大切な建物を守る

優和デザイン

北村 徳章 (平成2年卒)

∞∞ 目黒学院卒業生の皆様 ∞∞

建物の改修工事など

お気軽にご相談下さい。

〒115-0045

東京都北区赤羽1-66-10 シティ赤羽602

TEL 03-6802-6536

e-mail: yw-design@ksh.biglobe.ne.jp



東邦工業株式会社

Toho Industries Co., Ltd



●業務内容

熱硬化性プラスチック用インサートナット
熱可塑性プラスチック用インサートナット
携帯電話対応インサートナット

●ISO 9001.14001 認証取得

●本社・工場

東京都目黒区下目黒2丁目12番3号
TEL: 03-3490-1311(内) FAX: 03-3490-3848

●大岡山工場

東京都目黒区大岡山1丁目6番10号
TEL: 03-3717-3153 FAX: 03-3717-6790

●品川工場

東京都品川区南大井1丁目20番7号
TEL: 03-5764-3611 FAX: 03-5764-6760

E-mail: info@toho-indust.co.jp
URL: http://www.toho-indust.co.jp

代表取締役 **土方 國任** (31年3月卒)
Hijikata Kunitaka

平成23年度決算報告書

平成23年4月 1日から
平成24年3月31日まで

(収入の部)		(単位：円)	
科 目	予算額	決算額	摘 要
同 窓 会 費	2,226,600	2,226,600	618名分
入 会 金	458,000	458,000	229名分
賛 助 会 費	550,000	670,000	206名分
雑 収 入	73,500	73,802	会報掲載広告代及び預金利息
当期収入合計	3,308,100	3,428,402	
前年度繰越金	1,936,905	1,936,905	
収 入 合 計	5,245,005	5,365,308	

(支出の部)		(単位：円)	
科 目	予算額	決算額	摘 要
総 会 費	1,311,500	1,159,315	
通 信 費	1,150,000	1,013,880	会報発送郵便料
印 刷 費	160,000	144,595	賛助会費振込用紙
雑 費	1,500	840	
会 議 費	90,000	67,922	
役 員 会 費	84,000	66,592	出席者食事代
通 信 費	5,000	1,330	開催通知郵便料
雑 費	1,000	0	
補 助 費	380,000	310,000	
部・同好会補助	350,000	280,000	在校生部活動補助
文化祭補助	30,000	30,000	梧林祭の祝金
事 務 費	584,000	482,257	
人 件 費	320,000	277,580	会報発送手間代・役員手当等
事務消耗品費	170,000	136,017	会報発送用封筒代
交 際 費	90,000	46,000	慶弔費
交 通 費	1,000	0	
雑 費	3,000	22,660	
名 簿 費	450,000	240,000	
機 関 紙	250,000	240,000	15,000部作成
卒 業 生 名 簿	200,000	0	
奨 学 金	400,000	400,000	在校生奨学金4名分
予 備 費	100,000	0	
当期支出合計	3,315,500	2,659,494	
次年度繰越金	1,929,505	2,705,814	
支 出 合 計	5,245,005	5,365,308	

〔特別積立金〕		(単位：円)
保 管 種 別	本年度末	前年度末
定 期 預 金	7,000,000	7,000,000

平成23年度決算報告について

当初予算においては、単年度収支で7千円の支出超過を予定して開始されましたが、収入は予算に対して12万円の増となり、支出は極力経費の節減に努めたことにより、予算に対して66万円の減少となりました。

この結果、単年度収支は予算とは一転して77万円の収入超過となり、次年度への繰越金は270万円となりました。

1. 収入の部

同窓会費、入会金は予算どおり収受し、賛助会費は予算比で12万円増加し、雑収入はほぼ当初予算どおりとなり、収入合計では、予算に対して約12万円の増加となりました。

平成24年度収支予算は、平成24年度の事業計画と平成23年度の収支実績とを勘案して編成しました。

1. 収入の部

同窓会費は696名、入会金は310名を収納予定人員と積算し、また賛助会費は過去実績を勘案して延べ600口を収納予定として予算計上しました。

本年度は、総会・懇親会を開催しますので、総会会費及び寄附金収入を、過年度実績に基づき予算計上した。

平成24年度予算書

平成24年4月 1日から
平成25年3月31日まで

(収入の部)		(単位：円)	
科 目	予算額	前年度予算額	増 減
同 窓 会 費	2,506,800	2,226,600	280,200
入 会 金	620,000	458,000	162,000
賛 助 会 費	600,000	550,000	50,000
総 会 会 費	282,500	0	282,500
寄 付 金	130,000	0	130,000
雑 収 入	45,000	73,500	△ 28,500
当期収入合計	4,184,300	3,308,100	876,200
前年度繰越金	2,705,814	1,936,905	768,908
収 入 合 計	6,890,114	5,245,005	1,645,108

(支出の部)		(単位：円)	
科 目	予算額	前年度予算額	増 減
総 会 費	2,455,000	1,311,500	1,143,500
行 事 費	1,150,000	0	1,150,000
通 信 費	1,100,000	1,150,000	△ 50,000
印 刷 費	190,000	160,000	30,000
雑 費	15,000	1,500	13,500
会 議 費	106,000	90,000	16,000
役 員 会 費	85,000	84,000	1,000
委 員 会 費	15,000	0	15,000
通 信 費	5,000	5,000	0
雑 費	1,000	1,000	0
補 助 費	380,000	380,000	0
部・同好会補助	350,000	350,000	0
文化祭補助	30,000	30,000	0
事 務 費	585,000	584,000	1,000
人 件 費	340,000	320,000	20,000
事務消耗品費	160,000	170,000	△ 10,000
交 際 費	60,000	90,000	△ 30,000
交 通 費	1,000	1,000	0
雑 費	24,000	3,000	21,000
名 簿 費	250,000	450,000	△ 200,000
機 関 紙	250,000	250,000	0
卒 業 生 名 簿	0	200,000	△ 200,000
奨 学 金	400,000	400,000	0
予 備 費	100,000	100,000	0
当期支出合計	4,276,000	3,315,500	960,500
次年度繰越金	2,614,114	1,929,505	684,608
支 出 合 計	6,890,114	5,245,005	1,645,108

2. 支出の部

総会費をはじめとしたほとんどの経常支出科目において節減努力したことと、卒業生名簿の発行を中止したことにより、予算対比で66万円の減少となりました。

なお、在校生に対する奨学金支出は、予算どおりの40万円を執行しました。

〔会計監査報告〕

私は、平成23年4月1日から平成24年3月31日までの平成23年度における会計監査を行い、次のとおり報告する。

会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて監査を行った結果、公正かつ相違ないことを認めます。

平成24年4月18日 会計監査 石 渡 博 己

平成24年度予算について

2. 支出の部

本年度の事業計画は、①総会・懇親会の開催、②同窓会だより「桐」の発行、③在校生の部・同好会に対する補助、④在校生に対する奨学金支出等が主なものです。

例年と異なる点は、総会・懇親会の開催に伴う行事費予算の計上である。過去3年間、本年の総会・懇親会開催に向けて繰越資金の蓄積を行う一方、総会・懇親会の行事費予算を以前の開催時と比較し、節減・圧縮した予算計上とした。

この結果、次年度への繰越金は261万円を予定し、単年度収支では9万円と若干の支出超過予算となりました。

母校が共学になりました

昨年4月から、母校では一部男女共学が実施されました。そこで今回、本会の広報担当が初めて母校の在校生にインタビューを試み、男女共学をはじめ学園生活等に関する意見を聞いてみました。ご協力いただいた在校生の皆さん、そしてご担当の先生に深く感謝申し上げます。

○男女共学化について

- ・最初はきつかった。
- ・男子校だったから、来たんだけど。
- ・共学化するって知らなかったの、次の代から共学するってときは、驚きました。
- ・僕は、元々共学化する前に入ったので男子高校で勉学を3年間頑張っていたと思ってました。
- ・共学化して実際、女子が入ったことによって活気が出てきたと思います。まだまだこれから人数も少ないので、少しずつ女子も増えていって完全的な共学化にもっていきたいと思っています。
- ・私たちは、入試のときから元男子校ってわかってました。悩みましたけど、抵抗なく入れそうだなあ？と説明会とかに参加して大丈夫と思いました。挨拶出来る先輩が居たのでいいかなあ？とも思いました。また、雰囲気がいいとも思いました。(女子意見)
- ・共学化になっていい面もとても多いと思うんですが、まだしょうがないと思うんですけど、男女の力の差が均等じゃないというか、女子は花、男子は裏っていう感じが強いと思うんです。
- ・僕は、中学が共学だったので力が均等ではなく、逆に女子のほうが力が強いような雰囲気だったんです。この学校はまだ共学して新しいから、女子のほうがまだ全然力が弱く、何をしても不便が多いと思うので、そういうところも改善していけたらと思います。たとえば、梧林祭でも男子のほうがまだまだ発言力っていうか、そういうのが強いから意見が通っている、平等ではない。
- ・小学校から中学まで男子校だった、共学になってこの学校に入っただけですけど、やっぱり男子だけとか女子だけよりかは、ちゃんと男子も女子も居たほうが、どっちかだけというよりは人間的に成長しやすい。
- ・目黒学院が共学化してからの利点は、女子マネージャー確保にあると思います。なぜなら男子校だったときは、部活に入ったらまずは選手として入るので、管理等は顧問の先生ひとりに負担がかかっていましたけど、女子生徒が入ることによって管理等は、顧問の先生の負担が減る、そういう利点があったと思います。
- ・男子校のほうが女子に気をつかわなくていいから、自分は男子校のほうがよかったです。共学化することになって、すごい複雑だったけど、自分のように今の3年で共学を心よく思っている人が少ない。僕たちが卒業したら、みんな共学の人達なので、これから総合コースも共学するか、わからないですけど男子の意見を聞いてみた方がいい。
- ・入学したときは、上履は使わないって言うたのに、1年たったら普通に共学して上履きを使うようになって驚いた。
- ・私は、この学校に入学する理由として、授業料の無料制度でした。(女子意見)
- ・またA組は国公立を目指すということで入学を決めま

した。(女子意見)

- ・この一年間は、部活動は女子ひとりでしたが、楽しく過ごせました。(女子意見)
- ・新たに女子が入学してきたので、部活に積極的に参加してほしいと思います。
- ・弟が中学校に居るので受験しました。(女子意見)

○将来なりたいもの

- ・プログラマー
- ・サッカーをやっているの、その方向へ行きたいと思っているんですけど、ちょっと厳しいかな・・・明確な仕事という意味では教師になりたい。きっかけは、中学の担任の先生でその先生に出会ってなかったら、やりたいことが決まっていなかった。
- ・フランス語の教員になりたい。(女子意見)

○最近のニュースで関心があるもの

- ・去年の震災の関係で、去年を漢字1文字で表すってあったじゃないですか？去年の場合は「絆」だったんですけど、「絆」っていうのはおかしいなと思いました。なぜならばニュースとかで、皆震災で壊れた原発の責任追及をすべて政府に押し付けて、自分たちは何もやらないでいて本当に絆って言えるのだろうか、疑問に感じます。もっと別のところに目を向けるべきで、責任追及の前に今後マグニチュード9クラスの地震がきた時のための対策を話し合うとか、被災地の早い復興のために予算を組むなど、国民も協力出来ることが、色々あるはずなので。

○学園生活を有意義にするための意見

- ・先生のサポートも熱心だし十分だと思います。
- ・図書館なんですけど、図書委員をやっていたんですけども、本がこれ以上スペースがなくて追加できない、だからもうすこし図書館を広げるか、新しくどっかに作るかして新しい本も入れてったほうがいいんじゃないかと思いました。
- ・エアコンがうるさいから、換えてほしい。
- ・冷水器の設備を希望。
- ・共学化して、これからいろいろな人が来るようになるから、使いやすい、綺麗で良い施設が揃っていることを希望。
- ・トイレで男子と女子の綺麗差が激しい。
- ・ゴキブリがパイプイスから出るので、バルサンを使用してほしい。



インタビューに応じてくれた在校生の皆さん

◆恒例「親子二代卒業生」ご紹介◆

上 原	誠 (父)	昭和60年3月卒
	峻 (子息)	平成24年3月卒
加 藤	孝 義 (父)	昭和58年3月卒
	佳 祐 (子息)	平成24年3月卒